

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和2年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名				泉南清掃事務組合負担金事業				②事業番号		3305								
③事業類型		7. 負担金・補助金事業				④開始年度		昭和 42 年度		⑤終了予定年度		年度	○ 設定なし					
⑥根拠法令等		法令		○ 条例		規則		要綱		計画等		○ その他		法令等の名称	泉南清掃事務組合規約他			
⑦実施手法		直営		全部委託		一部委託		○ 補助・負担		その他								
⑧関連予算科目コード				款		4		項		2		目		2		細目	4	
⑨担当部名				⑩担当課名										会計		一般会計		
市民生活環境部				清掃課														

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市民	① 人口	人
② 一般廃棄物	② ごみ搬入量	t
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
2市(泉南市、阪南市)で構成する泉南清掃事務組合において、両市から排出される一般廃棄物の焼却及び再資源化を行っている。また、ごみを焼却するときの熱を利用し温水プールの運営を行っている。 組合の経費は両市の負担金でまかなわれ、負担金の算定方法均等割2/10人口割2/10重量割6/10である。	① 負担金	千円
	② ごみ搬入量処理経費	千円
	③ —	—
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
資源化と焼却処理に取り組む。	① 焼却処理量	t
	計算式	—
	② 資源化量	t
	計算式	—
	③ フェニックス搬入量	t
	計算式	—
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
一般廃棄物の適正な処理。	政策(章)	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち
	施策大(節)	3 日常生活や事業活動などにおいてすべての市民・事業者が資源・エネルギーの利用などに配慮し、環境に負荷をかけないまちをめざします
	施策中	1 資源・エネルギー有効利用の推進
	施策小	3 ごみ廃棄物の適正処理

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	人口	人	61,984	61,457	60,795	—	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	ごみ搬入量	t	21,902	21,259	19,968	18,131	17,500	
活動指標①	負担金	千円	509,687	470,926	551,582	568,222	—	
活動指標②	ごみ搬入量処理経費	千円	469,363	448,486	530,979	538,000	—	—
活動指標③	—	—	—	—	—	—	—	
成果指標①	焼却処理量	t	20,628	19,960	18,720	17,895	—	
成果指標②	資源化量	t	1,273	1,299	1,248	1,236	—	事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③	フェニックス搬入量	t	3,047	2,840	2,691	2,566	—	
事業費	投入人員	人	0.50	0.35	0.40	0.40	—	
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—	
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—	
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—	
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	4,054	2,699	3,053	3,053	—	—
	直接事業費	千円	469,363	448,486	530,979	538,000	—	
	総事業費	千円	473,417	451,185	534,032	541,053	—	
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	—	—
	府支出金	千円	0	0	0	0	—	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	—	
	その他特定財源	千円	0	0	0	0	—	
	一般財源	千円	473,417	451,185	534,032	541,053	—	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	廃棄物の適正処理を目的に開始した。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	焼却施設の老朽化や人口の減少に伴い、ごみを効率的に処理していくことが必要だと考える。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	新炉建設に向けて泉南清掃事務組合・泉南市・阪南市の3者で進めている。

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等						
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	2市で運営を行っており、適正に維持できている。					

[2]有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	A
②期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	不燃物処理資源化施設の稼働により効率よく資源化できているが、可燃ごみ、破碎後の可燃ごみ、資源化後の可燃ごみが若干増加したことにより、焼却処理量及び最終処分量も増加した。					
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)		ア. ある アイ. ない	市民に、ごみの排出量の抑制、更なる分別を周知することで、資源化率の向上に努める。					
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できますか。		ア. 類似なし アイ. できる ウ. できない	—					

[3]効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	B
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある アイ. ない	市民に3Rを推進することで、ごみの処分量が減少し、処理コストが削減される。					

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	一般廃棄物を適正処理するには、不可欠である。	

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞	
ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 ↓ ↓ ↓ (年まで) (年から) (年から)
	＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	
令和12年度に向けた新炉稼働の計画を進めるため調整中。	
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	
—	